

# 令和5年度 “「長久手市役所の仕事」通知表” の作成 ～長久手市行政評価・外部評価～

## 地域共生社会推進事業

市長直轄組織 地域共生推進課

まちづくり、まずは笑顔でこんにちは

長久手市はあいさつ運動に取り組んでいます

# 1 事業概要

## ◆事業名

地域共生社会推進事業

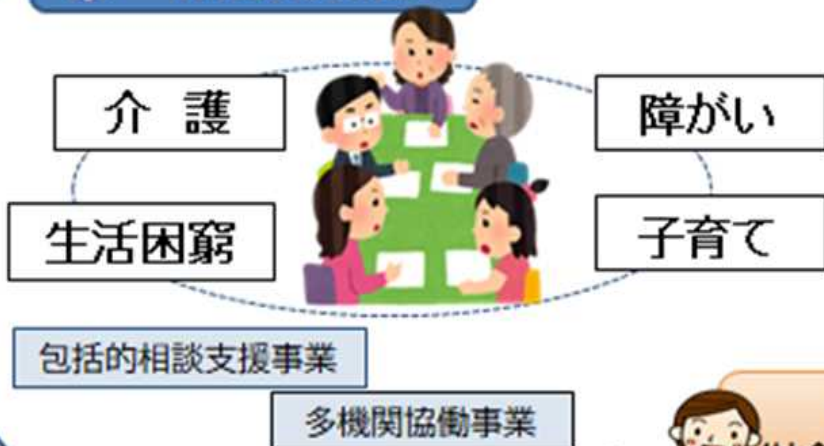
## ◆事業の開始の背景、経緯等

平成30年度に策定した第2次長久手市地域福祉計画に基づき、誰もが住み慣れたまちで安心して暮らせるよう、「地域共生社会の推進」のための取組を行っています。

モデル事業を経て、令和3年度から重層的支援体制整備事業を実施しながら、「地域共生社会」の実現に向けた取り組みを進めています。

# 長久手市の重層的支援体制整備事業

## ① 相談支援



## ② 参加支援

◎社会参加が必要な人のための居場所兼相談窓口『Nジョイ』の設置

参加支援事業



アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

- 【障がい】
- 【子ども】
- 【介護】
- 【生活困窮】

地域とともに考える「調整役」  
(小学校区単位)

地域共生担当  
(市)

地区社協

民生委員  
児童委員

社福・NPO

産業等

まちづくり協議会等

地域課題の把握や解決に向けて共有の場（プラットフォーム）

地域共生ステーション

観光交流

商工会

その他

ボランティア

連携

連携

## ③ 地域づくりに向けた支援

## 2 事業の実施体制

### ◆組織体制、人員

地域共生推進監（部長級）	1名
地域共生推進課長	1名
担当課長	1名
主幹	1名
課長補佐	1名
地域共生推進係長以下	6名※

※会計年度職員（月額）1名を含む

# 3 事業の目的①

◆事業のゴール（市としてどうなるのか）

最終アウトカム

一人一人に役割と居場所があり、  
助けがなかったら生きていけない  
人は全力で守られること。

## 3 事業の目的②

### ◆事業対象（誰、何を対象にしているか）

全市民

### ◆対象者がどうなることを目指すか

中間アウトカム

- ①支援のために連携した関係者※1の数を増加させる（相談支援）
- ②居場所等の運営に携わる市民数（地域づくり）
- ③伴走している支援件数（アウトリーチ／参加支援）

※1 支援プランに記載した関係者。人※2・課・機関・企業等。

※2 人＝相談支援の入口、参加支援における資源

# 3 事業の目的③

## ◆事業を構成する事務事業

	事務事業名
①	地域共生社会推進事業
②	—
③	—

## ◆どんな活動を行うのか

庁内外の関係者や地域、公民連携による「多様な社会参加」と「覚悟を持った寄り添い支援体制」を構築します。

# 4 成果指標

## ◆成果指標（対象者の変化をはかることができる指標）

支援のために連携した関係者の数

## ◆指標の設定根拠

役割と居場所があり、助けがなかったら生きていけない人が全力で守られる体制を作るためには、制度を超えた多様な機関・人との連携が必要です。現在は連携（ネットワーク）を広げていく時期であり、相談支援、参加支援、地域づくりのいずれも、支援の広がりを測るには「支援のために連携した関係者の数」が適切と考えます。

## ◆成果推移と成果目標

（単位：者）

R 2年度 実績	R 3年度 実績	R 4年度 実績	R 5年度	R 8年度
-	65	87	92	102



# 5 事業のふりかえり

## ◆事業開始からの主要なエピソード

- ・令和3年度から重層的支援体制整備事業を開始し、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施することで、包括的な支援体制の構築を進めています。
- ・地域共生社会推進事業の委託先である、長久手市社会福祉協議会と頻回に協議を重ね、重層的支援体制整備事業を進めるための連携の仕組みを改善しつつ、事業を実施しています。

## ◆令和4年度の活動エピソード

- ・包括化推進協議会を1回、実務者会議を2回開催し、各機関の情報共有、連携のあり方について、学習や意見交換を行いました。特に実務者会議においては、本市が目指す地域共生社会の姿を共通のものとするため、庁内連携会議（福祉部の他、多分野で構成）と合同で開催し、先進自治体の事例を学びながら、協働について理解を深めるワークショップを行いました。
- ・各相談支援機関の協力を得ながら包括的支援情報連携システムの実証実験を行い、各機関の情報共有、連携のあり方について協議、意見交換を行いました。

## 6 課題分析①

### ◆目標達成状況（進捗状況は順調か）

プロジェクトの実施、地域との関係構築に時間をかけることを通して、関係者（助けてくれる人）が増えています。

### ◆目標達成のために対処が必要な要因

改善ポイント

- ・ 制度の狭間や、複合的な課題を抱えた世帯を継続的に各機関が連携して支援できる体制の構築
- ・ 社会参加が必要な人など、ニーズに応じた伴走支援と社会参加につなぐ体制の構築

# 曼荼羅チャート


重層的支援体制整備事業に取り組むにあたり、課員の目線を合わせていくため、曼荼羅チャートづくりに取り組みました。

「事業を実施する上で大切にしたい視点」としてまとめました。

多様性を考える	当事者に丁寧に 向き合う	まきこみ、 まきこまれる
あいさつする	重層的支援体制 の整備	自分の気持ちに 向き合う
助けてくれる 仲間をつくる	地域の人を応援 する	小さく実践

# 6 課題分析②ー1

## ◆事務事業①の方向性

	事務事業名	事業の方向性	コストの方向性
①	地域共生社会推進事業	拡充 	維持 

## ◆中長期の計画（改善ポイントを踏まえ具体的に記入）

- ・目安として、重層的支援体制整備事業実施計画の終年である令和8年度を目標達成期間とします。
- ・引き続き、各プロジェクトに取り組み、相談支援、参加支援、地域づくりのための支援を一体的に進めるとともに、重層的支援体制整備事業実施計画の策定、包括的な支援体制の構築を推進していきます。

# 7 おわりに

## ◆外部評価実施者に助言をもらいたいことなど

- ・ 困り感のない方へのアウトリーチ（関係性構築に時間がかかる、変化が見えづらい）は時間をかける必要があるが、どう評価するとよいでしょうか？